

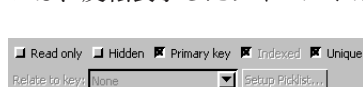
新規の値一覧を作成するウィザード

TNTの属性の値一覧はデータベーステーブルに基づいて作成される特別な一覧で、図形オブジェクト内の要素に対して許容可能な属性を含みます。

値一覧を用いると、設定した一覧から属性値を迅速に割り当てることができます。TNT製品では、新規もしくは既存のデータベーステーブルと一緒に使用する新規の値一覧の作成ウィザードを提供しています。この値一覧ウィザードは、作成した値一覧からの値を使って入力するフィールドを含むテーブルの作成もしくは編集の際、このテーブルに対して正しいデータベースリレーションシップを設定します。必要なデータベース間のリレーションシップ(関係付け)については、テクニカルガイドの「データベース：値一覧のリレシヨナル構造(Database: Picklist Relational Structure)」で解説しています。このウィザードでは、値一覧に表示されるスタイルを割り当てることもでき、後でそれを使って図形オブジェクトの要素を描くことができます。

新規もしくは既存のテーブルから値一覧を作成する

値一覧ウィザードを用いて値一覧を作成するには、新規のテーブルもしくはレコードが図形オブジェクト内の要素に直接アタッチされている既存のテーブルに対して、<テーブルプロパティ>ウィンドウ内で[値一覧の設定(Setup Picklist)]ボタンをクリックします。すると<新規テーブル(New Table)>あるいは<テーブルプロパティ(Table Properties)>ウィンドウ内で反転表示したフィールドに対する値一覧を提供するための新規テーブルを作成するウィザードが開きます。[値一覧の設定]ボタンは、反転表示したフィールドが文字フィールド(文字およびユニコード



の文字フィールドタイプを含む)でない場合、もしくは主キー(左図のとおり)の場合は押すことができません。

値一覧によって入力されるフィールドは値一覧テーブル中にある主キーに関連付ける必要があるため、主キーにはなれません。他のフィールドタイプの値(例えば、計算フィールドやメモフィールドなど)は、一覧から選ぶ際こと自体意味がありません。数値フィールド(整数や浮動小数点フィールド)も、直接数字を入力した方が早く簡単のため対象外です。入力を許す数値の数が少ない場合は、それらをテキストフィールドに含めることで値一覧を作ることができます。

値一覧テーブルに名前を付ける

値一覧ウィザードの初めのパネルで、値一覧テーブルに名前を付けます。デフォルトの名前および説明が与えられ、値一覧を関連付けるフィールド名と、値一覧である印(Picklist)が付けられます。デフォルトのままが良い場合は、[次へ(Next)]をクリックします。

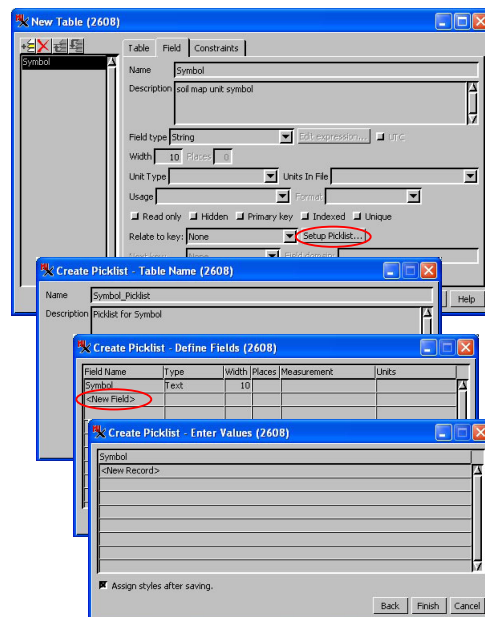
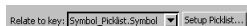
値一覧フィールドを定義する

次のパネルでは、値一覧テーブルに入れるフィールドを定義します。デフォルトでは、値一覧が作成されるフィールドと同じ名前のフィールドが表示されます。このフィールドが値一覧テーブル内に作成したい唯一のフィールドである場合は、[次へ]を再度クリックします。テーブルに新たなフィールドを追加したい場合は、[新規フィールド(New Field)]をクリックしてそのフィールド名を入力します。新規フィールドが追加されると前のフィールドと同じプロパティが適用されますが、これは全て変更することもできます。デフォルトのフィールドタイプを変更したい場合は、タイプ欄の上で左クリックしてメニューから希望するタイプを選択します。左図のメニューには、使用可能なフィールドタイプが示されています。(距離や重量、時間といった)計測のカテゴリーや単位も、該当する欄の上で左クリックしメニューから選択することで指定することができます。幅や該当する(小数点の)位置の値は、フィールドに入力することで変更可能です。右クリックでフィールドの順番を変更したり削除することもできます。値一覧では最初のフィールドだけが表示されますが、値一覧テーブルを開いている時は他のフィールドも表示されます。計算フィールドはこのメニューでは選択できませんが、通常のテーブル編集手順に従って値一覧テーブルに追加することができます。

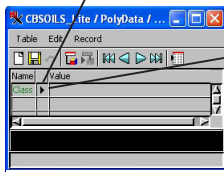


値一覧の選択項目を定義する

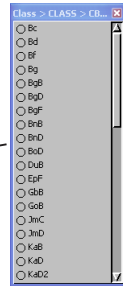
値一覧の選択項目は、値一覧ウィザードの3つ目のパネルで指定します。値一覧用に作成しているフィールドに既に値がある場合、パネルには予めその値が入力されています。<新規レコード(New record)>入力をクリックし、フィールドに文字入力して、この値一覧に追加したり、新規テーブル用の一覧の作成を開始することができます。既存の直接アタッチされているテーブルの値と同じ値を持った値一覧を作成することは、オブジェクトにさらに要素を足したい場合や、新規オブジェクト作成時に使用するテンプレートを作成したい場合に便利です。直接アタッチされたテーブルのレコードはテンプレートで保存されることはありませんが、「リレートのみ」のテーブル(値一覧テーブルなど)にある全てのレコードに関してはテンプレートで保持されます。



このボタンは、単一レコード表示でのみ表示されます。クリックすると値一覧が開きます。

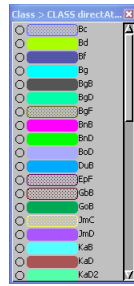


値一覧から入力可能なフィールドのあるテーブルの単一レコード表示



スタイル割り当てのない値一覧

もしくは



スタイル割り当て済みの値一覧



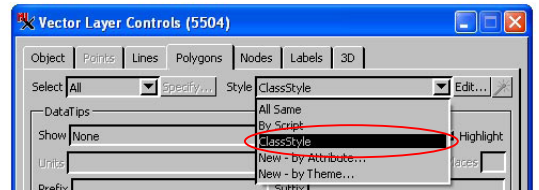
表形式表示の値一覧テーブル

このアイコンをクリックして[単一レコード表示 (Single Record View)]に切り替えます。

表形式で表示した値一覧テーブルの2つ目のフィールドは実際の値一覧には表示されません。

値一覧テーブルに名前を付ける

[保存後にスタイルを割り当て]トグルがオンになっている場合、[終了]ボタンをクリックすると<属性でスタイルを割り当て (Assign Styles by Attribute)>ウィンドウが開きます。値一覧を作成した属性が自動的に選択され、その値がスタイルの割り当てのため自動的にリストアップされます。値一覧ウィザードで値一覧テーブル用のスタイルを割り当てる操作は、<レイヤコントロール (Layer Controls)>ウィンドウで図形オブジェクトにスタイルを割り当てる場合と同じです。しかしながら、描画スタイルを割り当てた後に [OK] ボタンをクリックすると、[値一覧の設定] ボタンをクリックした際に作成・編集していたテーブルの<テーブルプロパティ>ウィンドウに戻ります。[保存後にスタイルを割り当て]トグルがオンになっている場合、[終了]ボタンを押すと<属性でスタイルを割り当て>ウィンドウに直接飛びます。設定したスタイルは自動的に値一覧に表示されます。値一覧に対して設定したスタイルを要素の描画スタイルとして使用するには、<レイヤコントロール>ウィンドウにおいて値一覧を使って設定したスタイル割り当てテーブルを選ぶ必要があります。選択するスタイルテーブルの名前は、値一覧の名前に _Styles が付いたものです。



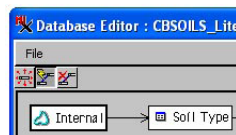
値一覧に関するその他の注意点

値一覧テーブルの設定はいつでも変更することができます。<テーブルプロパティ>ウィンドウで正しいフィールドが反転表示している時に [値一覧の設定] ボタンを再度クリックするか、<表示マネージャ (Display Manager)>ウィンドウまたは<レイヤマネージャ (Layer Manager)>ウィンドウにおいて通常のデータベース編集機能を使用します。値一覧ウィザードを使用している際にフィールド値の入力やスタイルの割り当てを飛ばした場合は、それぞれ後に設定することが可能です。

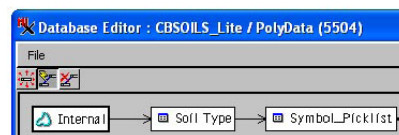
覚えておいてほしいのは、値一覧はテーブルの単一レコード表示でしか使えないということです (トップの図を参照)。値一覧は、ウィザードを使わなくても「リレートのみ」のテーブルにおいて文字フィールドに対して外部キーの参照をしていれば使用することができます。ウィザードを使用せずに既存のテーブルの値を値一覧用に使用したい場合は、テクニカルガイドの「データベース: 新規オブジェクトに対する値一覧を手動で作成する (Database: Creating picklists Manually for New Objects)」をご覧ください。

もう1つ覚えておいてほしいのは、値一覧の内容は値一覧ウィザードを用いて作成したにせよ、もしくは手動で作成したにせよ再利用することができます。オブジェクトをテンプレートとして保存し、次に作成したいオブジェクトの開始点としてそのテンプレートを使用することができます (詳細はテクニカルガイドの「空間エディタ: 地理データテンプレートの作成と使用 (Spatial Editor: Creating and Using Geodata Templates)」を参照)。ウィザードによって作成した値一覧テーブルを新規もしくは既存のオブジェクトに追加して、手動で必要なリレーションシップを設定することもできます (テクニカルガイドの「データベース: 新規オブジェクトに対する値一覧を手動で作成する (前出)」もしくは「データベース: 値一覧のリレーション構築 (Database: Picklist Relational Structure)」を参照)。

<表示マネージャ>ウィンドウにおいて、(テーブルではなく) データベースのレベルでマウスの右ボタンメニューから [リレーションの編集 (Edit Relations)] を選択すると、各テーブルがどのように関連づけられているか確認でき、様々な操作を行うことができます。

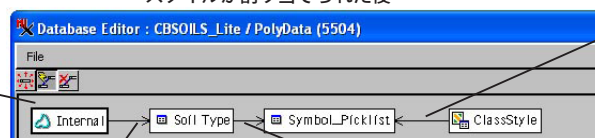


値一覧テーブルを追加する前は、1つのテーブルを持ったオブジェクトがあります。



値一覧追加後で、スタイルを割り当てる前

スタイルが割り当てられた後



<リレーションの編集>ウィンドウ内の左端のボックスが要素を表しています。

矢印は、要素が「土壌タイプ (SOIL TYPE)」テーブルのレコードに関連付けられていることを示しています。

この矢印は、「土壌タイプ」テーブルのレコードが「SYMBOL_PICKLIST」テーブルのレコードに関連付けられていることを示しています。

この矢印は、「SYMBOL_PICKLIST_STYLES」テーブルのレコードも「SYMBOL_PICKLIST_STYLES」テーブルのレコードに関連付けられていることを示しています